

平成 25・26 年度 土木学会複合構造委員会 第 6 回幹事会議事録

1. 日 時：平成 26 年 3 月 15 日(土) 9:00～12:15
2. 場 所：伊勢シティホテル 会議室
3. 出席者：島委員長，奥井副委員長，池田幹事長，大久保幹事，葛西幹事，斉藤幹事，下村幹事，滝本幹事，広瀬幹事，古市幹事，牧幹事，松本幹事，溝江幹事，久米村事務局員（欠席者：大山幹事，西崎幹事，渡辺幹事）

4. 配布資料

- 資料 幹6-0 第 6 回複合構造委員会幹事会議事次第
- 資料 幹6-1 第 5 回複合構造委員会幹事会議事録（案）
- 資料 幹6-2 土木学会論文集A1特集号：複合構造 準備状況
- 資料 幹6-3-1 合成床版受託研究契約書
- 資料 幹6-3-2 合成床版受託研究メンバー構成(案)
- 資料 幹6-3-3 合成床版受託研究 幹事下打ち合わせについて
- 資料 幹6-4 平成25年度予算執行状況
- 資料 幹6-5 「FRP水門設計・施工指針（案）」講習会 報告
- 資料 幹6-6 ISO特別委員会 報告
- 資料 幹6-7 出版関係（出版図書の販売状況と平成26年度出版計画）
- 資料 幹6-8-1 小委員会一覧
- 資料 幹6-8-2 H101示方書委員会
- 資料 幹6-9 平成26年度研究討論会
- 資料 幹6-10 第5回FRP複合構造・橋梁に関するシンポジウム
- 資料 幹6-11 平成 2 6 年度「重点研究課題（研究助成金）」申請
- 資料 幹6-12 標準示方書の規準編のあり方
- 資料 幹6-13 小委員会設置の見直し
- 資料 幹6-14 来年度の委員会・幹事会スケジュール

5. 議事内容

(1) 委員長挨拶

島委員長より，挨拶がなされた．

(2) 第5回 幹事会議事録(案)の確認 (資料 幹6-1)

池田幹事長より，第5回幹事会の議事録(案)の確認がなされた．修正点は以下の通りである．

- ・出席者に大久保幹事の名前が二つあるので，一つ削除する．
- ・(2)第5回幹事会議事録(案)の確認を第4回幹事会議事録(案)の確認に修正

(3) 論文集特集号 (資料 幹6-2)

葛西幹事より，論文集特集号の準備状況について，現在，小委員会報告3編が到着しており，今後は査読が行われること，上田先生の招待論文はまだできていない，一般論文9編の投稿があり数編の返却

があった等の報告があった。

その後、以下の点に関して確認された。

- ・特集号は掲載までの時間が早いというのが特徴であり、招待論文の影響で登載が遅れるのは避けたい。
- ・招待論文のページ数がわかれば、一般論文は進められるので調整したい。5月掲載でのデットラインは4/中頃なので、方針を小委員会で詰める。
- ・巻頭言は依頼済で、葛西幹事から杉浦小委員長に確認する。
- ・校正にかかる費用は一部次年度に持ち越す。

(4) 合成床版の設計・施工マニュアルに関する受託研究小委員会の設置 (資料 幹6-3-1～幹6-3-3)

大久保幹事より、委託研究契約が3/3付けで締結されたこと、幹事下打ち合わせを行い、年間スケジュールを確認したことについて報告があった。

その後、以下の点について確認された。

- ・メンバー構成は親委員会へメール審議する。
- ・鋼コンクリート合成床版は、道路橋や鉄道橋のような特有の名称と認識する。
- ・1年間の予定であるが、延長が必要な場合は、年内に判断する。

(5) 平成25年度予算執行状況 (資料 幹6-4)

池田幹事長より、平成25年度の予算執行状況について説明があった。現状は予算に対し今回の複合幹事会での使用予定額を除くと16万円程度の余りがあるが、論文特集号の校正等で、ほぼ予算通りとなる見込みである。

(6) 「FRP水門設計・施工指針(案)」講習会 (資料 幹6-5)

池田幹事長より、2月19日に「FRP水門設計・施工指針(案)」の講習会が開催され、64名の参加があったと報告された。講習会での質問はホームページに掲載される予定である。また、収支は次回の幹事会で報告の予定である。講習会の記事が橋梁新聞に記載された。

(7) I S O特別委員会報告(資料 幹6-6)

広瀬幹事より、1月21日に開催されたI S O特別委員会報告がなされた。内容は、国内審議団体の活動状況、国際規格等による技術基準への影響等についての状況報告である。複合に関するものはFRPに関するものであった。

(8) 出版関係 (資料 幹6-7)

大久保幹事より、2013年2月末時点の出版状況について報告があった。FRP水門設計・施工指針(案)が今回新たに出版された。H208委員会は2月25日の出版幹事会に出版企画書を提出し承認された。今後はH206とH209が出版計画書を提出する予定である。

出版については原価回収部数に達成するために販売促進活動が必要となるが、複合で出版されている書籍をトータルの売り上げで管理できる方向として考えられないか。今後議論される委員会の見直しも含め検討したい。

(9) 小委員会報告審議事項 (資料 幹6-8)

H101 複合構造標準示方書小委員会 (資料 幹6-8-2)

斉藤幹事より、2014年4月18日に各編の原案が出そろう、関係各所に査読をお願いすることとなることが報告された。

H206 複合構造ずれ止めの性能評価法に関する調査研究小委員会

池田幹事長より、報告書のまとめ作業を行っているとの報告がなされた。

H208 FRP複合構造研究小委員会

松本幹事より、報告書の執筆に関する委員会が、あと2回開催されると報告があった。講習会は「第5回 FRP複合構造・橋梁に関するシンポジウム」の開催に合わせることも報告された。

H212 複合構造物の耐荷メカニズム研究小委員会

牧幹事より、とりまとめる内容の検討を行っているとの報告がなされた。

(10) 平成26年度研究討論会 (資料 幹6-9)

池田幹事長より、平成26年度の研究討論会のテーマについて説明があった。現状の候補としては、①複合構造の維持管理技術の現状と課題、②複合構造物の水対策－水に強い複合構造物に向けて－、③社会資本の長寿命化を問う（長寿命化の未来に何が見えるか？）が考えられ、これらを参考にして以下の意見があった。

- ・維持管理と更新、改築としてはどうか。長寿命化を考慮することにもなる。
- ・更新については、新しい委員会のテーマであることから、問題提起やPRになる内容にした方がよい。
- ・複合構造示方書に関するものは出版前なので、来年にした方がよい。

以上のことから、テーマを更新に関するものとし、対象は合成桁、合成床版、既設橋脚を合成構造で巻きたてる構造等とする。パネリストは、NEXCO西日本、阪神高速、JR東海（東海道新幹線）、国総研、土研等から願います。企画は葛西幹事が作成することとなった。

(11) 第5回FRP複合構造・橋梁に関するシンポジウム (資料 幹6-10)

溝江幹事より、シンポジウムの開催日が11月12日～13日に変更になったことをホームページに掲載したと報告があった。今後の予定は、5月9日に申し込み締切、8月29日に投稿締切、9月上旬に参加募集する。H208とH209も講習会を同時開催する予定である。

(12) 重点研究課題について(資料 幹6-11)

葛西幹事より、重点研究課題の申請書を提出したが採択されなかったと報告があった。しかし、今後の課題について、やることが明らかになってきたので、新しい小委員会を立ち上げて検討して行くこととし、次回までに設立趣意書を作成することとなった。

(13) 標準示方書の規定のあり方(資料 幹6-12)

池田幹事長より、土木構造用FRPの標準的な品質を定めた基準類がJISなどに存在せず、示方書の検討の中で、品質規格および試験方法を規準編としてまとめる必要性が生じたと説明があった。他分野では、コンクリート標準示方書で定められており、複合構造としての対応が以下の案で提案された。また、下村幹事から、コンクリート委員会としては、【案2】のように複合構造委員会で策定・保守して頂きたいこと、【案3】は土木学会で担当の部署がないため現状では不可能との話があったことが報告された。

【案1】コンクリート標準示方書「規準編」に収録して頂く

【案2】「複合構造標準示方書「規準編」」として収録する

【案3】土木学会規準の体系を、上に土木学会規準があつて、そこに「コンクリート編」、「複合構造編」があるように組み直す。

【案4】今回は規準（案）位に留めて示方書の資料として掲載しておく

複合構造標準示方書に「規準編」を設ける方向で検討を進めることが確認され、当面は【案4】で進めることとし、将来的には「規準編」を作成するための内容の検討が必要であることが確認された。

(14)来年度の委員会・幹事会のスケジュール(資料6-14)

池田幹事長から来年度のスケジュールについて提案があり調整を行った。スケジュールは以下の通りである。

委員会：6月27日(金)

幹事会：5月16日(金)、7月25日(金)、9月11日(木)（大阪）

これ以降は、後日調整することとなった。

(15) 300年プロジェクトについて

古市幹事より、300年プロジェクトを複合構造委員会ではなく、土木学会全体へ答申していくための検討を、来年度末までを目標に、複合構造委員会の幹事を中心とした少人数で行っていくことを考えているという報告があった。本活動は、新たに小委員会を設置せずに、幹事会の中のWGとして行うこととなった。

(16) 小委員会設置の基本方針 (資料 幹6-13)

池田幹事長より、前回幹事会の小委員会設置の見直しの提案をもとに、委員構成、成果の公表等を整理した内容と運営細則等の変更の必要性について説明があった。第一種小委員会は示方書へ直結する研究、第二種小委員会は社会的ニーズやトレンドを創出する課題に対する研究と位置づけ、公表の成果を、それぞれ区分 2(複合構造シリーズ)、区分 3(複合構造レポート)とすることが提案された。これについて、以下のような意見があった。

- ・第二種小委員会は報告書は作るが、講習会開催や出版しないケースも考えられ、議論が必要である。成果をホームページに掲載することも考えられる。
- ・出版しない場合は、委員会立ち上げ時に審議をして方針を決める必要がある。
- ・現状の運営細則に則ると、必ずしも講習会開催や報告書出版を義務付けているものではない。運営細則の変更は可能な範囲でしない方がよい。
- ・今後の引き継ぎのために文書に残した方がよい。公表に関する申し合わせの変更あるいは別途覚書の作成等が必要となる。
- ・現在動いている委員会もあるので、適用するのか、しないのかを含め、議論が必要である。

これらの事項についてはメールで意見交換することとなった。

(17) その他

特になし

以 上
(記録・文責：大久保宣人)